

COEプログラムの 歩みを振り返る

ご挨拶

再びの幕開けに向けて

神奈川大学副学長
神奈川大学21世紀COEプログラム拠点形成委員会委員長

池上 和夫
IKEGAMI Kazuo



「人類文化研究のための非文字資料の体系化」プログラムもこの3月で終了することとなりました。まずは、この5年間のご努力・ご協力に対して、リーダーの福田アジオ教授をはじめとする関係各位に厚く感謝申し上げます。

現在、「研究成果報告書（総括編）」の編集など、その最終的な取り纏めが精力的に行われているところであります。今後は、その成果を発展的に継承するため、引き続きグローバルCOEプログラムに申請いたしました。このグローバルCOEは、周知のごとく、申請時には、学長を中心としたマネジメント体制による指導力のもと、大学の特色を踏まえた将来計画と強い実行力により国際的に卓越した教育研究拠点を形成する計画であり、同時に教育研究拠点としての継続的な教育研究活動が自主的・恒常的に行われることが期待できる計画であるかどうかなどが問われます。つまり、当事業は、単なる研究プロジェクトではなく、独創的、画期的な研究基盤を前提に、高度な研究能力を有する人材育成の機能を持つ「人材育成の場」を形成するものでなければなりません。

それゆえ、その申請にも関連して、本プログラムの成果を発展的に継承し、日本常民文化研究所に付置されるプログラムの後継拠点としての非文字資料研究センターの充実を図っていかねばならないと考えています。当センターは、採択時の申請書でもプログラム終了時に研究を継承発展していく拠点として位置づけられており、センターを基盤として、特に歴史民俗資料学研究科と協働しながら優れた若手研究者の育成に引き続き取り組んでいく事が強く求められています。

幸いにして、これまでに、外部評価委員の方々からは、今後、我々が真摯に取り組まなければならない厳しいご批判とともに、プログラムの中核を担った日本常民文化研究所に対しては、「まさに歴史民俗資料学の至極の宝庫であり、世界的に見ても最高水準の研究所である」という評価や、「神奈川大学の誇るべき『戦略的資産』である」とのお言葉もいただき、意を強くしたところでもあります。また、「私立大学として、これだけ充実した研究活動を行っているところは数少ないので、大学側も経営の戦略拠点として、援助や協力を惜しまないことを期待したい」という評価委員のご助言も、大学運営の「選択と集中」の時代にあって、本学の特徴を活かす意味においても、肝に銘じなければならない指摘であると思います。

尚、本年9月には本プログラムの最終的な事後審査が行われます。現在の拠点形成委員会は、さしあたり、プログラムが終了してもその時期までは継続しますので、今後とも関係各位をはじめとする皆様方のご協力をお願いする次第であります。